

安保・戦争国会粉碎へ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2015年5月3日
No.289

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

4・28沖縄デー闘争打ち抜く！

斎藤全学連委員長の法大門前アピール

全学連委員長の斎藤郁真です。私自身、2010年に法大を退学処分になりました。ぜひ皆さん、本日の4・28「辺野古新基地建設阻止、大学の戦争協力阻止」そして学生自身がキャンパスから立ち上がって戦争をとめていく、この大学の現実を打ち破っていく今日の行動にぜひ共に参加してほしいと訴えます。

いま目の前にある法政大学の姿、どう思いますか。とんだ「自由と進歩」じゃないですか。いま「学問の自由」を掲げて東京大学は軍事研究を解禁しました。

いま「学問の自由」を掲げて学生生活に国家が介入して、「大学を変えなくちゃいけない」といって国旗掲揚・国歌斉唱や、もしくは「奨学金を返せない学生は防衛省に1年間から2年間インターンシップにいけ」こういう制度が作られようとしています。

こういう状況の中でいま本当に私たちの大学が、そして何よりも私たち学生1人1人が問われていると私は思います。この目の前の現実を私は1つはっきりさせたい。法政大学は学生の力にびびっているってことです。考えても見てください。いまここに、全国から多くの学生が集ってくれました。しかし客観的に見ればまだそんなに多くはありません。それは私たちの実力不足でもあります。しかしじゃあ私たちがこの人数で、この門を乗り越えて何かをしようとして、それができると思えますか。私たちにその決意はありますが、実力的にはまだまだです。じゃあなぜ、この門を閉めなくちゃいけないのか。みなさん考えてみてください。今日の外濠門の封鎖、先ほどから見てれば明らかのように、外からは入れるけど中からは出れない。そういう状況がつくられています。外濠門の封鎖という行為は、私たちが法大生と合流すること、法大生が



デモに出ること、これを恐れているからこそ、こういう体制をとっているんだってことです。

みなさんに考えてほしい。いま私たち学生が大学の戦争協力を反対して、授業を全部ぶっとばしてストライキやデモをやる、そうになったら目の前にいる教授たちは何を思うでしょうか。大学の主人公は学生なんだってことを今日こそ思い知らせてやりましょう。

かつて法政大学は日本最強の自治があるとされていました。学生が団結して行動し、自分たちで自分たちのルールをつくり、それを自分たちで守ってきました。そうやって大学自治をつくり社会を変えていく。それが社会変革の砦としての法政大学の誇りだったと私は思っています。

でも皆さん。いま「自由と進歩」を掲げて田中優子総長は、テレビに出れば「安倍政権はおかしい」「日本が戦争国家になるのはおかしい」こういう風に言いながら、大学ではこういうことを平気でやっているわけです。

私は「大学の戦争協力」について軍事研究や経済的徴兵制のことを言うてきました。しかし核心は、結局この体制です。学生が政治のことについて考える、もしくは考えて行動したら「リスクがある」。「リスクがある」というのは文連と関わることじゃなくて、文連と関わったら大学が弾圧してくるから、もしくはあそこにいる公安警察、ああいう連中が弾圧してくるからじゃないですか。こういう現実と闘わずに、何が戦争反対なんだ。何が原発反対なんだ。どんなの多くの人たちの怒りが、どんなに多くの人たちの思いが、こうやって潰されてきたのか。何で原発が日本中にあんなにつくられたんですか。80年代、日本中で原発反対の運動が巻き起こりました。だけどいま何もなくなって、「現地の人たちが金もらって原発を受け入れたんだ」と言われる。おかしくありませんか。そう思うようにさせたのはいったい誰だ。思いを叩き潰して、生きていくためには金をもらわなきゃいけない、そういう状況をつくったのは一体誰だ。

法政大学がまさしくそうじゃないですか。学生から政治を奪い、一方で学費をつりあげ、奨学金に頼らざるを得ない学生を膨大に作り出し

戦争法案粉碎！ 安倍たおせ！

〈6・15国会包囲大闘争〉

6月15日（月）終日、国会デモや座り込み行動＜予定＞

〈5/16～18沖縄現地闘争〉

～辺野古新基地建設阻止！ 全島ゼネストと連帯しよう！～

5月15日（金）辺野古現地集会 ※先遣隊のみ参加

16日（土）国際通りデモ、全国学生集会、「復帰」43年集会

17日（日）沖縄県民大会（那覇市セルラースタジアム）に合流

18日（月）沖縄大学で集会



て、返せない学生は防衛省にインターンシップに行け、この学生の思いは法政大学にとってどうなんですか。いつも法政大学は私たちに対して「迷惑だ」「組織的業務妨害」と言っています。じゃあ法政大学が普段やっている「業務」は一体何なんですか。学生が戦場に送られるかもしれない、そういう学生たちの思いにお前らは答えたことがあるのか。

ある日突然サークルが規制され、ある日突然ピラマキができなくなり、何百万と言う奨学金を背負ってこれから社会に出て行く。その不安を抱えている学生たちに対して、お前たちはどう答えてきたんだ。私は絶対に許しません。私はそういう大学のあり方が絶対におかしいと思って立ち上がったし、そしてこの法政大学を退学になった後も、本当に多くの労働者や市民の方の協力を得て、今も闘い続けています。

そしてこの法政大学の現実を日本中に広めよう、絶対にこの現実をひっくり返そう、そうやって日本全体に学生自治会を再建していく、この運動を全学連の委員長としてやってきました。その成果の一つは、昨年の京都大学における公安警察の摘発・追放、こういう形であられました。

みなさん。学生が怒りをもって行動し、団結すれば必ず社会は変わります。

みなさん。もう愚痴を言うのはやめにしましょう。誰も考えてない、誰も行動しない、そう言うのはもうやめにしましょう。今日4月28日、沖縄の怒りに連帯して共にデモに出て、私たち学生の力を、大学が何のためにあるのかってことを私たちの行動で示しましょう。よろしくお願ひします。

森全学連書記次長の国会デモ前アピール

法政大学の集会をぶち抜いて、ここ新橋駅前でただいま集会をぶち抜いています。皆さん、昨日日本の安倍はアメリカのオバマと会談を行って、新たなガイドラインの締結を強行しました。昨年の7.1の集団的自衛権行使容認の閣議決定をもって、日本の安倍政権は大きく戦争へと舵を切りました。あの7.1の閣議決定のときにあの安倍は一体なんと言いましたか？彼は「国家の存立・国民の存立を全うするとともに、国民の命を守る」こんなことを言った。しかしみなさん国民の命を切り捨てている人物、それは安倍じゃないですか！みなさん、いまの沖縄の現実を見てください。福島の実情をみてください。あるいは今、労働者が2000万人非正規職でいつクビを切られてもおかしくないこんな現実にある。とりわけ、私達学生・青年の半分以上が非正規職に叩き落されて、いつクビを切られてもおかしくないこんな現実にある。こういった貧困の現実をいまの安倍は生み出しています。そして彼が今言っていることはなにか。奨学金が払えなくなった学生を防衛省や自衛隊にインターンシップにいかせろこんなことを言っている。

私はこんな安倍政権を一日たりともこの日本においてのさばらせるわけにはいかない！いますぐ打倒しなくちゃいけない。そう固く決意して本日の集会を打ち抜いています。本日は平日の中、全国の大学あるいは職場から、青年・学生と労働者があつまって来ていただきました。本当にありがとうございます。今日は全国の大学が、自分の人生をかけて安倍政権を倒す戦争を止めるそのために戦いに立ち上がる日です。私達全学連は、7.1集団的自衛権の行使容認にたいして、全国の大学でいまこそ学生が戦争

反対・安倍政権打倒の声をあげなくちゃいけない。

こうやってずっと大学の中でたたかってきました。あの3.11原発事故後に、福島で一体なにが起きたか。大学の学者、名誉教授がああ3.11の直後に福島に乗り込んで「放射能の被害はありません。」あるいは「子ども達を外で遊ばせてもいい」こんなことを言って、今福島でなにが起きていますか。118人もの子ども達から、小児甲状腺ガンの疑いも見つかって、80人以上がすでに手術をうけている。みなさん安倍政権は福島の実情を切り捨て、命を奪っているじゃないですか？みなさん、なにが自衛ですか？なにが国民の命を守るですか？私達はこんな安倍政権のペテンにもうだまされることは無い！

これまで多くの青年・多くの学生がその命も含めてあらゆる権利を奪われてきた。今の大学を見てください。戦争反対の一言もあげられない。戦争反対のピラマキすらできない。少しでも学生が大学に対して、あるいは国家にたいして声をあげたら大学の職員と警察が、総力で学生に襲い掛かってくる。これがいまの現実です。これがいまの日本の現実です。昨年の11月に京都大学において公安警察を学生が摘発するこういったおおきな事件おおきな勝利をかちとることができました。

安倍政権の戦争政治と一体で、ますます日々学生への弾圧・労働者への弾圧これが激しくなっています。あの公安警察を摘発するあの戦いが示したものそれは学生への力あるいは青年や労働者の力で必ず戦争を止めることはできるということです。皆さん戦争とは一体どういう形で引き起こされていくのでしょうか？あの第二次世界大戦の時にとおく、学生が戦争に動員されました。あるいは多くの労働者が戦争に動員され、労働者が動員される形で初めて戦争が成り立つ。私達は今こそ、この安倍政権の戦争への動き。大量に貧困を生み出している。この現実にたいして学生は、学生自治会を作って大学の中で戦い、街頭に打ってでる。国会を包囲する。

この戦いとそして、労働者は職場で団結を固めて、今資本によって経営者達によって、命が奪われている。労働者が人として扱われないこの現実に対して、当たり前のように間違ってる。その声をあげて戦う。そのことがなによりも求められていると思います。

一つ一つを労働者に対する弾圧、学生に対する弾圧、くやしき・いかり、これを解き放って、戦う中で、そしてこの社会を変えることができると私は思っています。

本日の集会は、労働者と学生が本気になって安倍政権を打ち倒して、戦争をとめていく。その出発点になる日です。若者とりわけ青年・学生は毎日のように命が奪われています。私は最近、「ブラック企業」という本を読みました。その中で展開されている内容、これはもはや人が人として職場であつかわれ、これまでの人生が全て引き下ろされて、機械のように働かされる。どれだけ労働者が長時間労働で、働かされようが雑巾のように搾り取られて搾り取られるまで働かされる。あげくの果てには、青年が死に追いやられる。こんな現実を安倍政権は作っているわけです。残業代ゼロ法、これを彼らは作ろうとしています。こういったいまの安倍政権の現実、これは日本のみならず全世界で渦巻いています。韓国を見てください。あのセウォル号の事件を引き起こしたパク・クネを打倒するために、今80万人もの組合員がゼネストを組織して、闘ってるじゃないですか！私達、日本の学生・労働者もこのようないまのふざけきった政権を打倒するために、今こそゼネストを叩きつけなくちゃいけない。それが私達、労働者・学生の回答です。今日はこの4.28はいまの沖縄、実際に戦争を行うための基地建設がまさに目の前で始まろうとしている。沖縄とかたく連帯して、ともに戦争を止める日です。

本日の集会とデモ、元氣良く打ち抜いてともに戦いに打って出しましょう。

【当面する行動方針】

●5・10「外登法・入管法と民族差別を撃つ」全国交流集会

5月10日(日) 13時～ 横浜市開港記念会館にて

●「とめよう戦争と改憲、つぶせ裁判員制度」5・19集会

5月19日(火) 18時半～ 東京・弁護士会館2階クレオにて

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判・第10回＝判決

6月29日(月) 11時～ 東京地裁419号法廷にて

※傍聴券配布のため、10時半までに裁判所入口脇に集合してください。

